

部門名：校内研修プログラム開発・実践部門 エントリー名：明石市立大久保小学校

活動名：若手教員の授業力 UP 時短深化！板書を活用した実践交流

解決すべき課題：※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

本校は大規模校であり教職員の人数が多く、毎年3～4名の初任者が新しく担任となったり、大きく入れ替わったりしている。その為、現在、若手教員（教員経験1～5年目）が42学級中25学級の担任となっている。新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりをめざす中で、その若手教員の授業力向上の必要性が大きな課題として挙げられている。また、「働き方改革」により、校内研修や校内研究をいかに効率的で質の高いものにしていくかも考えなければならない状況である。ベテラン教員から若手教員への教材研究方法の伝達や授業後の次時以降の指導を効率的かつ効果的に行う必要性があった。

目標・方針：※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

主に以下の5つに取り組むことで、本校の課題が解決できるとともに、若手教員に、「授業力がUPした。」「教材研究の仕方がわかり、以前より効率的に教材研究ができた。」と思ってもらえるのではと考えた。
①授業スタイルの共有 ②深い学びの具体の共有 ③グループ毎の実践交流 ④板書の記録・保存・閲覧 ⑤教材研究日の設定

活動内容：※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

- ①本校が伝統的に取り組んできた授業スタイルを「大久保メソッド」と設定した。「主体的・対話的で深い学び」につながる場の設定や児童への学習支援を学習過程に明示し、全教職員と共有した。(資料1)
 - ②「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて：校内研修シリーズ No25』を全教職員で視聴し、「深い学びの具体」と「教師の教材研究の視点」「授業の中での意図的な支援の必要性」を共有した。
 - ③指導案形式ではなく、事前に提示した見本(資料2)を基に、実践授業の板書もしくは活動の様子の写真と、成果・課題を記載した資料を作成した。それを持ちより、各学年1名ずつのグループや学年毎のグループで、実践交流を行った。(写真1) 資料を各1部ファイリングし、職員図書棚で閲覧可とした。(写真2)
 - ④学年毎に単元を決め、板書等を記録し、報告する場を設定した。また、記録した板書写真をいつでも閲覧できるよう、校内の共有フォルダに保存していった。(写真3)
 - ⑤会議や研修の無い、毎週金曜日の16時10分から16時45分までを教材研究日に設定した。学年やグループで教材研究に取り組んだり、授業づくりに関する質疑応答を気軽に行ったりできる環境にした。
- ・①～⑤の順で取り組んだ。枠組みや方向性を共有した後、実際に取り組む時間を設けた。

活動の成果：※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- 上記の活動に取り組んだことで、「授業が上手くできた」の声や以下のような感想、教職員の姿が見られた。
- ・「板書から、子ども達がどのような発言をしていたかがわかり、自分が授業をする際の想定ができた。ベテランの先生方と自分（若手教員）の違いは子どもの姿をどれだけ想定できるかだとわかった。」
- ・「板書を参考にすることで、0からではなく、1からの教材研究ができ、効率的だと感じた。」
- ・「前年度の単元全体の板書をさっと見ることができ、単元の流れや終末の活動がすぐわかる。本校の子どもの実態に応じた教材研究が見通しをもってできるようになったし、系統性を意識することが大切だとわかった。」
- ・「授業スタイルが統一されているため、板書を見て、どのような授業をすればよいかかわるようになった。」
- ・若手教員からベテラン教員への質問が増えた。・若手教員が板書を記録し次の学習に活用するようになった。
- ・発問をどうすればよいかなど、授業づくりに関する議論や話題が職員室内等で頻繁に見られるようになった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：※3～5つ程度の箇条書きしてください

- ・内容によって全教職員とグループに分けて議論・共有し、グループ討議の進行はベテラン・中堅教員が行った。
- ・新たに資料等を作成するのではなく、今あるNITSの校内研修シリーズを活用した。
- ・資料を作成しやすいよう、見本を提示した。・時短だけでなく、深い教材研究ができるようになった。

<写真、図表添付欄>

(資料1)



(資料2)



(写真1)



(写真2)



(写真3)

